



図2. a: シラタカハムシ雄交尾器; b: クロルリハムシ雄交尾器 (左: 背面; 右: 側面)。

### 謝辞

末筆ながら、本報の執筆を助めていただき、原稿の校閲もしてくださった千葉県の齋藤諭氏、文献等の収集にご協力いただいた東京都の南雅之氏、比和科学博物館での標本調査を快諾してくださった元比和科学博物館館長の中村慎吾氏、標本調査にご協力くださった広島県の秋山美文氏、貴重な標本をご恵与いただいた岡山県の山地治氏に厚くお礼申し上げます。

### 引用文献

- 中村慎吾・秋山美文・木元新作, 1994. 広島県産ハムシ科目録. 比和科学博物館研究報告, (32): 69-101.  
 Nakane, T., 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XVI. Fragmenta Coleopterologica, 4/5: 18-20.

- 齋藤 諭, 2010. 日本産オオヨモギハムシ種群の形態の地理的変異について. 甲虫ニュース, (170): 1-11.  
 齋藤 諭, 2012. 日本産ヨモギハムシ目録. 月刊むし, (491): 10-26.  
 Saitoh S., S. Miyai & H. Katakura, 2008. Geographical variation and diversification in the flightless leaf beetles of the *Chrysolina angusticollis* species complex (Chrysomelidae, Coleoptera) in northern Japan. Biological Journal of the Linnean Society, 93: 557-578.  
 齋藤 諭・南 雅之, 2016. 日本初記録のシラタカハムシについて. 月刊むし, (544): 12-15.  
 Suzuki, K. & S. Saitoh, 2011. Description of a new species of the genus *Chrysolina* (Coleoptera, Chrysomelidae) from Central Honshu, Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 1(1): 131-140.  
 武田 隆, 2016. シラタカハムシの生態. 月刊むし, (550): 44-47.  
 山地 治, 1994. 岡山県から採集した甲虫類の記録. すずむし, (128): 7-13.

(2017年9月26日受領, 2017年11月24日受理)

### 【短報】ヨドシロヘリハンミョウを愛媛県から初確認

ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspecularis* (W. Horn, 1904) は、朝鮮半島、中国南部、台湾、日本（瀬戸内海一帯と九州、四国、種子島）から記録されており、ヨシ群落やマングローブ林と隣接する砂泥地の河口域に限定して分布する特異な種である（橋村・丸山, 2015）。本種は、環境省絶滅危惧II類のほか、国内14府県で絶滅もしくは絶滅危惧種にランクし（NPO法人野生生物調査協会・NPO法人Envision環境保全事務所, 2017）、全国で絶滅が危惧されている。筆者らは従来記録のなかった愛媛県から本種を確認したので、以下に記録する。生息場所は非常に狭い地域であり、具体的な地名については保全措置がとられるまでは明らかにしない。

3exs. (成虫), 愛媛県内, 9. VII. 2017, 橋越清一採集, 愛媛県生物多様性センター保管; 10exs. (成



図1. ヨドシロヘリハンミョウ. 2017年7月9日, 橋越清一撮影。

虫), 同場所, 15. VII. 2017, 久松定智目撃。瀬戸内海周辺部での本種の生息状況として、隣

県の香川では、“塩田内では、主として通路に多く見られる”，“瀬戸内海沿岸部にとくに多く生息する”という記述（松沢，1966）や、小豆島からの記録（大平，1974）など1970年代までの記録はあるものの近年の確実な記録はないとのことである。

末筆ながら、本種の記録を勧めて下さった酒井雅博先生、香川県での本種の生息状況や文献をご教示頂いた藤本博文氏、近県での本種生息状況についてご教示頂いた宇都宮靖博氏にお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 橋村正雄・丸山宗利，2015. ヨドシロヘリハンミョウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物5 昆虫類，214 p. 株式会社ぎょうせい，東京.
- 松沢 寛，1966. 塩田害虫オオツノハネカグシの生態と防除に関する研究. 日本専売公社昭和38・39年度製塩嘱託試験報告. 55 pp. + 4 pls.
- NPO 法人野生生物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所，2017. 日本のレッドデータ検索システム. URL <http://jpnrdp.com/> (2017年7月26日アクセス)
- 大平幸男，1974. 小豆島の昆虫，香川の動植物. 74-75.

(久松定智 790-0003 松山市三番町8丁目234  
愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター)  
(橋越清一 790-0854 松山市岩崎町)

#### 【短報】フトヒゲコメツキダマシの京都府からの初記録

フトヒゲコメツキダマシ *Fryanus japonicus* Hisamatsu, 1957 は，土佐黒尊（現：高知県四万十市）を基準産地として記載されたコメツキダマシ科の一種で，本州・四国に分布する（Hisamatsu, 1957）. 筆者は従来記録のなかった京都府において本種を記録しているので報告する. 少し古い記録ではあるが，このほど畑山武一郎氏に同定していただく機会を得て，本種であることが判明し，「京都府レッドデータブック2015別冊京都府自然環境目録」に記載がなく，関西甲虫談話会会員数名の方々に京都府における採集例について照会したが，情報が得られなかったので京



図1. 京都府産フトヒゲコメツキダマシ（スケール1.0 mm）

都府未記録と判断した.

1♂，京都府舞鶴市上安，五老ヶ岳，16. VI. 2014，黒田亘採集，筆者保管，畑山武一郎同定（図1）

採集場所は，標高約300 mの五老ヶ岳山頂にある都市公園の散策道で，採集に同行した息子が「見つけ取り法」により採集した. 現地は都市公園とはいえ，周囲の山腹は針葉樹の植林が少なく自然林が多く残っている.

なお，本種は分布が局所的で時々FITで採集できる希少種（畑山，私信）であるため，本種の寄主や生態等の解明はなお困難を極めることが予想される.

末筆ながら，本種の同定と情報提供をしていたいただいた畑山武一郎氏，および標本写真の撮影をしていただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士，ならびに本種の京都府における採集例を調べていただいた関西甲虫談話会会員諸氏に心からお礼申し上げます.

#### 引用文献

- Hisamatsu, S., 1957. The Eucnemidae of Shikoku, Japan (Coleoptera), III. Trans. Shikoku Ent. Soc., 5 (3): 46-48.
- 京都府自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック2015 別冊京都府自然環境目録. 415 pp.

(黒田悠三 624-0851 舞鶴市大内野町47-3)

#### 【短報】ヨツモンカメノコハムシの分布北限記録の更新

ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg, 1789) はハムシ科カメノコハムシ亜科に属し，日本，台湾，インドシナ，インドまで広く生息する広域分布種である（木元・滝沢，1994）. 寄主植物は，サツマイモ，ヒルガオなどのヒルガオ科植物で，サツマイモの害虫としても扱われている（小川，2003）. 日本では，沖縄本島以南に生息していたが，1997年には奄美大島に侵入し（今坂・海老原，1997），近年，喜界島（今坂・祝2007），屋久島（久保田，2008），宮崎県（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター，2008），熊本県（清水，2010），長崎県（山元，2000），福岡県（山瀬，2011），高知県（佐野，2014），愛媛県（越智・吉富，2016），山口県（山口県農林総合技術センター農業技術部資源循環研究室，2016），静岡県（酒井ほか，2008），伊豆諸島の大島・三宅島（竹内ほか，2012）と分布を拡大している. 今回，神奈川県厚木市において，2016年5月ならびに2017年4月から7月にかけて本種が得られている，同県からの記録は無いようなのでここに報告する.

1ex.，神奈川県厚木市船子，4. V. 2016，城所採